

2009年3月期 第1四半期決算カンファレンスコールでの主な質疑応答内容  
(2008年7月30日実施)

【全般】

Q1：今回はセグメント別の通期業績予想の変更はされないのですか。

A1：社内計画を踏まえ、セグメント別業績予想を変更する状況にはないと判断しました。

【通信機器関連事業】

Q2：通信機器関連事業の第1四半期の業績内訳を教えてください。

A2：

	売上高	事業損益
携帯電話端末関連	675億円	△4億円
通信システム機器関連	85億円	16億円

携帯電話端末と通信システム機器の事業を含む従来の京セラの国内事業は黒字でした。

今回承継した旧三洋電機(株)の携帯電話端末事業及び従来からの京セラの北米での携帯電話端末事業(KWC)は赤字でした。

Q3：携帯電話端末事業の下半期に向けての見通しを教えてください。

A3：下半期に向けての課題は、旧三洋の携帯電話端末事業とKWCの収益性を改善させることです。

旧三洋の事業については、事業承継をする前から、今期1年間かけて事業基盤を強化するという目標を掲げています。具体的な取組みとしては、部材の共同購買、開発及び営業の統合などを行っています。

KWCについては、日本からの開発面での支援を行い、黒字化を目指します。

Q4：KWCにおいて、前年同期に比した利益の改善度合いを教えてください。

A4：残念ながら前年同期と同水準の損失でした。

Q 5 : 国内携帯電話端末事業の利益の改善度合いはどうか。  
改善金額を教えてください。

A 5 : 従来からの京セラの国内携帯電話端末事業の利益は大幅に増加しました。  
具体的な金額の開示はしておりませんが、前年同期に比べ約60%増加しました。

Q 6 : 第2四半期以降の事業環境の見通しについて教えてください。

A 6 : 国内の携帯電話端末市場は、割賦販売の影響で事業環境が厳しくなると予想しています。  
海外市場についても、事業環境は悪化していますが、内部改善の余地はあると考えています。

#### 【情報機器関連事業】

Q 7 : 情報機器関連事業は下半期偏重型の事業計画であるため、下半期に大きな利益が出ると考えていいですか。

A 7 : 第2四半期及び第4四半期に収益が上がるという構造を持っていますが、構造に大きな変化はないであろうと考えています。  
下半期にかけて同セグメントの最大の課題は米国市場であると考えています。  
欧州市場の景気後退は現状起こっていませんが、懸念しています。  
また、製品ラインアップに関しては、カラー化が他社に対して遅れていることが課題ですが、秋にカラーMFP及びカラープリンターを市場投入する予定です。

Q 8 : 情報機器関連事業の第2四半期以降の事業環境の見通しについて教えてください。

A 8 : 企業向けのプリンタ、MFPは、企業の設備投資を抑制されると事業環境は非常に厳しくなります。第2四半期は、米国市場の状況は変わらないと考えており、引き続き米国が第2四半期の業績の大きな要因になると考えています。

プリンタが主要製品の欧州については、状況を読みきれていませんが、第2四半期の売上は第1四半期に比べ増加すると予想しています。

Q 9 : 売上が通期予想を達成できない場合、利益への影響はどのような考えればいいですか。

A 9 : 利益への影響は出ると思います。

【半導体部品関連事業】

Q 1 0 : 半導体部品関連事業は、2桁の増収増益ですが、製品別の状況を教えてください。

A 1 0 : 第1四半期の売上の約80%がセラミック、有機は残りの20%でした。前年同期に比べ、セラミック関連は10%超の増収、有機関連は30%の増収となりました。

セラミック関連では、携帯電話端末の高機能化に伴い、LTCC基板や電子部品用表面実装パッケージが伸びていますが、CCD/CMOSパッケージに関しては、デジタルカメラの在庫の増加を懸念しています。

有機関連ではサーバー/ルーター用のASICパッケージが伸びています。

【ファインセラミック応用品関連事業】

Q 1 1 : セラミック応用品関連事業の対前四半期は売上が横ばい、利益が微減ですが、このセグメントの各事業の状況を教えてください。

A 1 1 : このセグメント内の事業の売上はそれぞれ対前四半期概ね横ばいとなりました。利益については、切削工具事業が原材料費の高騰の影響を受けています。

Q 1 2 : ソーラーエネルギー事業は今後どのような推移になると予想していますか。

A 1 2 : 第1四半期は想定以上で推移しました。ドイツのフィードインタリフ制度の下げ幅を製品の単価下落として含めていましたが、単価下落は起きませんでした。これが業績上ぶれの大きな要因です。今期の売上について、第4四半期は第1四半期に対して約20%の増加を見込んでいます。

今期は長期契約に基づいてスポット価格より安い値段でシリコン原料の調達をしているため、収益性は維持できると考えています。このため、利益については設備投資額と減価償却費を考慮しても、第1四半期の水準を維持できると考えています。

Q 1 3 : ソーラー市場における補助金制度が変化していきますが、どのような影響があると予想していますか。

A 1 3 : ドイツのフィードインタリフ制度が、各国の補助金制度に一番影響を及ぼしますが、今後3年間で電力の買取価格を25%程度を下げる新案が出ています。この新案はまだ最終決定されていません。3年間で25%の電力買取価格の削減に対しては、当社も3年間で25%のコストダウンにより対応は可能と考えています。

国内の補助金制度については、具体的な案がまだ出ていません。しかし、市場全体が発展できるような制度が出てくれば歓迎します。

#### 【その他の事業】

Q 1 4 : その他の事業の第1四半期の利益が低い理由をコスト増加であると説明されましたが、これは一時的なものですか。

A 1 4 : コスト増加は一時的なものです。このセグメントには小さな事業が沢山含まれており、それらの事業においてコストが増加すると、セグメント全体に影響を及ぼします。

以 上